

八戸工科学院高卒 2 年課程の学生に対する 就職相談の取り組み状況について

青森県立八戸工科学院 訓練第二課 嶋森 稔

1. はじめに

青森県には、障害者職業訓練校 1 校を含め県立の職業能力開発施設が 7 校あります。

その中で唯一、当学院は、平成 7 年度から全訓練科（機械システム工学科，設備システム工学科，自動車システム工学科，制御システム工学科）を高卒 2 年課程とし，校名も「青森県立八戸高等技術専門学校」から「青森県立八戸工科学院」に改め，再スタートしたところです。

当学院がある八戸市は，青森県の太平洋側に位置する県内屈指の工業と漁業が盛んな 24 万人都市であるとともに，うみねこ（海猫）の繁殖地である「蕪島」や縄文土器の数多く出土している「是川遺跡」など，名所・史跡がたくさん点在している地域であります。また，平成 14 年 12 月の東北新幹線の開業を目指して，現在盛んに工事が進められているところであり，これを期に，今後，当地域の経済が更なる発展を遂げるものと期待されています。

このような中で，当学院は，技術革新等に対応できる実践的技能者（即戦力となりうる技能者）の養成を目標に訓練してきたところであり，はや丸 5 年が経過しました。

今回，特集テーマである「職業能力開発に関する相談援助」に関する投稿機会をいただいたことから，当学院の学生に対する就職相談の取り組み状況の実例を紹介いたします。



写真 1 県立八戸工科学院全景

2. 就職相談の取り組み状況

2.1 最近の就職状況について

当学院における最近 5 年の就職状況については，表 1 のとおりとなっています。

その就職状況の内訳をみると，平成 7 年度と平成 11 年度に各 1 名ずつの未就職者があり，その理由として，1 名は公務員志望による再受験，残りの 1 名は希望する就職先が見つからなかったための就職浪人によるものです。

最近のバブル経済の崩壊等による雇用情勢の厳しい中，100% 近い就職率を維持していることは，各業界から当学院の学生に対して，高い評価をいただいているものと確信しているところです。

表1 最近5カ年の就職状況

年度	修了者数	進学者数	就職者数	県内 就職者数	県内 就職率%	県外 就職者数	県外 就職率%	未就職者数	就職率%
7	70	0	69	61	88.4	8	11.6	1	98.6
8	84	0	84	71	84.5	13	15.5	0	100.0
9	66	0	66	58	87.9	8	12.1	0	100.0
10	66	1	65	53	81.5	12	18.5	0	100.0
11	76	0	75	66	88.0	9	12.0	1	98.7

2.2 学院全体による就職相談の援助体制について

学院全体としては、各訓練科に共通の主な就職相談の援助を次のとおり実施しています。

(1) 三者面談 5月下旬の実施

毎年、学院の年間行事として開催している後援会総会（保護者の組織会）と同一日に実施しており、その内容は、各科2年次担任指導員と学生及び保護者が面談し、就職職種・地域・就職活動の進め方等について話し合い、決定しています。

また、学生に対しては、この日が実質的な就職活動のスタートとして位置づけさせています。

(2) 職業相談 6月上旬の実施

三者面談での決定内容を踏まえ、公共職業安定所の職員（5人）に来校していただき、学生との個別相談を行い、希望職種・地域の現況などを聞いたり、就職活動全般についてのアドバイスを受けています。

(3) 職業講話 職業相談と同一日に実施

これまでは、全訓練科の2年生を一堂に集め、公共職業安定所長等を講師に招き、雇用情勢等の現況を題材に講話していただいていたのですが、昨年からは、各訓練科ごとに、より身近な関連業界の方を講師として招き、業界の情勢、望まれる新入社員像や求職活動の心構え等を題材にして講演していただく形式をとっています。

その結果、学生の関心度は、各訓練科とも今まで以上に高いものとなり、自分がこれから関わろうとする業界の内容などを無駄話することなく真剣に耳を傾けていました。これを受けて、今後も各訓練科の関連業界の方を講師として招くことを継続したい

と考えています。

以上の行事開催については、学院内の業務分担となっている「学生係」が就職指導を担当しておりますが、直接就職指導を行うのは各科の担当指導員であり、学生係はその側面を援助したり、学院全体として行う就職指導行事等の企画・実施をこれまで行っているところです。

2.3 各訓練科の就職相談の援助活動事例について

(1) 機械システム工学科の援助活動事例

【これまでの援助活動の状況】

機械システム工学科の特徴としては、数多くの事業所を就職活動の対象として選択できるよう、機械加工分野と溶接分野の両方の訓練内容を2年間にわたり指導しています。

その指導内容を紹介すると、次のとおりです。

1年次：機械加工＋溶接に関する基本的な訓練内容の指導

- ・溶接技術検定試験受験（10月）
- ・現場実習10日間（11月）
- ・溶接技術検定試験受験（12月）
- ・就職先希望職種調査（3月）

機械加工と溶接のいずれかの選択

2年次：2年次進級時に選択した就職希望職種に合わせた専門的な訓練内容の指導

- ・床上操作式クレーン運転技能講習試験受験（5月）
- ・玉掛技能講習試験受験（5月）
- ・溶接技術検定試験受験（7月）

表2 機械システム工学科の就職状況

年度	修了者数	就職者数	県内就職	県外就職
7	17	17	17	0
8	14	14	14	0
9	10	10	9	1
10	10	10	9	1
11	13	13	11	2
合計	64	64	60	4

- ・溶接技術検定試験受験（10月）
- ・小型移動式クレーン運転技能講習試験受験（11月）
- ・溶接技術検定試験受験（12月）

以上のような訓練内容の流れの中で、まず1年次には、就職を意識させるため、資格試験受験、現場実習、就職先希望職種調査などを行い、2年次には、それらを自分のことと認識させたいうえで、それぞれ選択した希望職種を重点的に取り組む訓練内容を設定しています。

また、当学院周辺には、機械加工および溶接の関連事業所が200社余りあり、学生にとって就職先の選択肢が多いということが就職活動を優位に進められる状況であり、表2に紹介したとおり過去の修了生の就職率が100%を達成させている1つの要因であると考えています。ただし、この要因だけで、学生が希望通り就職できるという理由ではなく、やはり当学院の指導内容と修了生に対する高い評価を受けていることが第一の要因であると考えているところです。

【今後の就職相談援助に関する課題】

これまでは、修了生の活躍などにより、雇用情勢が芳しくない状況のもと何とか採用していた事業所においても、今後は当面求人控えたいという事業所が増えてきています。このため、このままでは求人数が減る一方であることから、現在の訓練内容の見直しが必要だと考えています。

また、最近の学生の入学動機としては、就職等ができなかったもので、とりあえず技能・技術を身につけるという程度の意識しかなく、職業人として意識

づけするのに指導員が多く時間を費やしている現状です。

(2) 設備システム工学科の援助活動事例

【これまでの援助活動の状況】

設備システム工学科の特徴としては、入学当初から就職指導を意識した訓練内容で取り組んでいます。

その活動内容を紹介しますと次のとおりです。

年次目標

1年次

- ・入学時の意識づけ
- ・職業人としての常識指導
- ・就職に有利な資格取得
- ・現場実習
- ・技能五輪県予選参加
- ・関連業界団体とのつながり

2年次

- ・職業人としての常識指導
- ・個別相談
- ・求人開拓
- ・関連業界団体とのつながり

これらの主な内容としては、

入学時の意識づけ

生きるために働き、働くために学ぶのであり、働くために道具の使い方や、それを使って物を作る方法を重点に指導している。

就職に有利な資格取得

この不況時に就職するためには、強力な武器（資格）を必要としている。設備業界では、数多くの資格があり、在学中に挑戦できるものについては、より多くの関連資格を取得するように指導している。

職業人としての常識指導

「この科を修了して設備業界に就職するんだ」という目的意識を常に指導している。

与えられた作業をこなすことはもちろんであるが常に「ままになる（飯の種）」ように、自主的に考え行動させている。

現場実習

1年次に基本実技をある程度こなしてから、11月

に設備関連会社に1週間程度現場実習に出し、業界の生の姿や厳しさ、ものづくりの楽しさを体験させている。

技能五輪県予選参加

1年次では、基本作業の仕上げとして、「建築配管作業」種目の技能五輪県予選に参加させている。このことが先輩から後輩へ受け継がれ、地域の業界へのアピールともなっている。

個別相談

最初の個別相談は、2年次に進級する際、職種・希望地などについて本人の希望を聴取し、春季休校を利用して保護者と十分話し合うよう指導している。

求人開拓

県内の設備関連業界団体に対しては、求人の依頼を文書にて行い、FAX等で各会員に周知していただいている。

夏季休校中に、学生が業界団体名簿から興味を示した会社を中心に、指導員が訪問して、業界の現状の把握や求人の依頼を行い、就職先の開拓を行っている。

関連業界団体とのつながり

配管技能士試験事前講習会・2種電気工事士実技試験事前講習会を実施し、参加者を業界団体等を通じ募集することにより、当学院の存在や内容を認識してもらう。

業界団体の総会にオブザーバーとして参加し、名刺交換や情報収集、求人依頼等を行っている。

【今後の就職相談援助に関する課題】

当学院と業界とのつながりだけではなく、その業界で実務経験を積んだ中途採用の指導員が業界における知人等人脈をフル活用して、この不況下でもなんとか就職につなげている現状です。

また、求人数激減により指導員が、電話やじかに足を運んでの求人開拓を実施しなければ、就職率100%達成は困難である状況です。

指導員が本来業務である職業訓練指導に専念すべきであるのに、学生の就職決定まで奔走しなければならず、逆にその分、職業訓練指導が疎かになっているのではないかと危惧されています。

(3) 自動車システム工学科の援助活動事例

【これまでの援助活動の状況】

自動車システム工学科の特徴としては、2年生の就職活動の一環として、求人情報の提供および事業者と学生間の情報交換を図ることを目的に会社概要説明会を例年5月下旬に実施しています。

その実施内容を次のとおり紹介します。

会社概要説明会の実施内容

実施年度

平成4年度から

実施時期

毎年5月下旬

実施場所

当学院体育館

実施経緯

- ・学生に会社の概要や求人情報を一度に知る機会を与えるため。
- ・会社側から同じ時期に直接学生全員に説明をさせてほしい旨の要望があったこと。
- ・求人数が多かった時代、求人が早い者勝ちの傾向があったこと。

効果

- ・求人側の会社概要や入社試験日等の情報がその場で直ちに知ることができる。
- ・求人側の就職情報を平等に学生に与えられる。
- ・各会社の採用担当者と直接情報交換ができる。

問題点

- ・一般工場は、年度末頃にならないと採用計画が決まらないので、就職相談に参加する数が少ないこと。
- ・入社試験日が年々早くなってきているので、実施日が早くなってきていること。

表3 会社概要説明会の出席会社数の推移

区分		年度					
		7	8	9	10	11	12
出席 依頼数	県内	33	32	21	21	21	21
	県外	8	8				
出席数	県内	25	23	20	17	15	16
	県外	3	3				

- ・県内のディーラーのために実施しているような傾向であること。

自動車システム工学科の1年間の就職相談

- ・HR等での就職希望調査，個別相談
学生の就職先を早期に決定できるよう指導している。
- ・会社概要説明会（県内ディーラー）
就職先未定の学生を含め，全学生に就職活動のリハーサル等も兼ねて参加するよう指導している。
- ・求人情報等安定所との事務連絡
最新の求人情報を入手するために，常に職業安定所の担当官と連絡を密にしている。
- ・会社へ採用予定の確認および求人依頼
採用計画の決定が遅い一般工場を主体に電話連絡により確認，必要に応じて会社訪問したうえ，求人依頼を行っている。
- ・修了生等を通じ求人情報の入手
修了生等を通じて，最新の求人情報を入手し，求人開拓を行っている。
- ・面接，入社試験の対策指導
指導員が求人側担当官になり，面接のリハーサルを実施している。また，常識問題のテキストを学生に提供している。
- ・就職先に合わせた訓練の実施
就職内定者については，できる限り会社の業務内容に合わせた訓練を重点的に指導している。
- ・採用内定会社に礼状の送付
次年度修了生の就職先の確保のため，採用内定した会社に対しては，必ず礼状を送付し，つながりをつけている。

【今後の就職相談援助に関する課題】

これまで過去3年間に修了した学生は，全員が2級自動車整備士の資格を取得して，ディーラーや一般工場に就職し，それぞれが活躍しており，自動車業界から高い評価を受けています。

しかし，最近では，規制緩和による車両法などの改正が目まぐるしく変化する中，長期にわたる景気低迷なども重なり，整備需要の落ち込みが生じ，売



写真2 会社概要説明会風景

表4 自動車システム工学科の就職状況

年度	修了者数	就職者の内訳					
		県内		県外		計	
		ディーラー	一般	ディーラー	一般	ディーラー	一般
7	31	16	12	1	2	17	14
8	29	17	9	3		20	9
9	28	12	12	2	2	14	14
10	27	15	9	1	2	16	11
11	28	11	15		2	11	17

り上げ向上のため，取り扱う商品も多様化し，企業間の競争が激しくなっています。このような状況の中で，景気が緩やかに回復していると言われてはいるものの，求人数が減少し，就職も年々厳しくなってきました。

今後は，自動車システム工学科が独自に実施している会社概要説明会を，ディーラー用，一般工場用と年2回実施することと，ディーラーだけではなく県内一般工場も数多く参加させるなどの充実を図り，学生に対する就職相談援助を強化することが課題となっています。

(4) 制御システム工学科の活動事例

【これまでの援助活動の状況】

制御システム工学科は，平成7年度に新設され，過去4回の修了生を社会に送り出しているところであり，現在まで試行錯誤を繰り返しながら就職指導

を続けているところです。

そのため、制御システム工学科としての就職援助活動の体制整備は、もう少し時間がかかるものと考えています。

ただし、新設科であるために、現在まで手探りでの就職指導を行ってきたところですが、表5に示すとおり、過去4年間で54名の修了生のうち就職した者が52名(96.3%)、うち41人(78.8%)が県内に就職をしており、この数字から考察できることは、確実に各業界から高い評価を得ているということです。また、これまでの訓練指導が業界ニーズにマッチしていたことが高い就職率を継続できているものと考えています。

次に、これまでの就職指導を通じて感じたことを紹介します。

県外に就職した学生の中には、地元志向が見受けられ、八戸市に支社を持つ企業に就職し、将来地元に戻るようにと考えている学生もいるため、そうした状況を考慮して、誘致企業の求人開拓に積極的に取り組むこととしている。

近年、求人数の減少により学生の就職活動はかなり厳しい状況の中、数人の学生はすんなり内定するが、ボーダーラインより下の学生は何社受けてもすべて不合格になるなど、二極化の傾向があることから、このことについては受験した企業をできる限り訪問して、その原因を調査したいと考えている。

また、1回の採用試験で就職できる学生が必ずしも成績上位というわけではなく、企業が求める人材と、学生の成績とは必ずしも一致しているとは言いきれないなど、最近は就職試験でグループ討議などを行う企業が多く、コミュニケーション能力など、成績以外の要素も非常に重要視している感があることから、今後の就職指導内容にこのことを取り入れていくことにしている。

その他に、これまでの学生の就職試験内容について、学生同士がその内容を情報交換しやすいように、試験を受けた学生はその内容や感じたことをシートに記録し、それを学生がいつでも閲覧できるようにファイリングしている。

表5 制御システム工学科の就職状況

年度	修了者数	就職者数	県内就職	県外就職	未就職者数	備考
8	20	20	18	2	0	
9	6	6	6	0	0	
10	11	10	6	4	1	大学進学
11	17	16	11	4	1	
合計	54	52	41	10	2	

【今後の就職相談援助に関する課題】

就職率100%を達成させるためには、業界の求人情報の収集が重要であるため、積極的に修了生の就職先事業所を訪問したいと考えています。

また、就職や訓練に関する最新の情報を得るために、修了生との情報交換の場(OB会など)を早期に設立したいと考えています。

3. おわりに

今後も就職率100%を継続していくためには、これまで通りの訓練指導では長引く経済不況による雇用情勢のもと、かなり厳しいものと予想しています。

また、今後も引き続き、高度情報化、ME化等の技術革新や業界ニーズに即応できる人材育成がますます重要になってくるものと考えています。

そのため、当学院としては、

各業界が必要としている技能・技術を見据えた訓練内容の更なる充実・強化

学生に対する早期の職業意識の確立

各業界・団体等との緊密な連携

等を図り、万全な訓練体制で臨むことが重要と考えています。

最後に、当学院が各業界から高い評価を受け、これまで修了生を採用していただいていることは、各指導員の熱意と使命感によるものであり、それらがないと100%の就職率が達成されることは決してないものと各指導員に感謝しているところであります。